

ファシリテーションを援用した「話し合いの見える化」する学習活動の実践と理論の研究

工藤哲夫(京都ノートルダム女子大学心理学部 教授)

1 文学作品をよみ深めは、タブレットと模造紙によるファシリテーション・グラフィックで!

「読みの課題を設定するとき」「読みの深い課題を話し合うとき」に使いたい。

タブレットのソフトは発展途上です。模造紙はさらなる発展の可能性が見えました。

《タブレットでの話し合い←チャットを補助にして》

A:なんか難しくしてもわかんなくなるから比較的わかりやすい疑問にした。

C: (*●●*)

D: ○○へ そうです!!!メロスにとって何を突き通すことが、守ることが正義になるのかってことです

A:メロスの正義って良くない?

B: ○○のが一番かっこいいけどむずかしそう?

C: (´・_・`)

B: ○○のはシンプルだよ

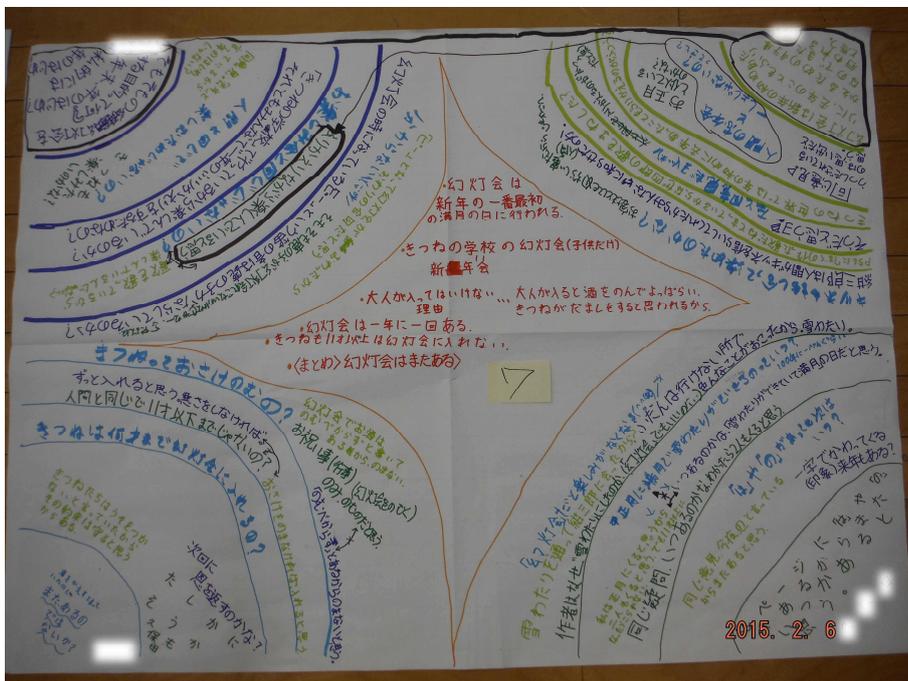
B: まだ無理だああああああああああああああああ

A:ディオニスとメロスの言い合いのシーンとか正義でてない?

D: ○○の課題は伏線とか外側から見ていくのが面白い!

B: なんか作者目線だよ

《ファシリテーション・グラフィックの形はワールドカフェ方式で更に発展!》



2 効果の測定は、「協同作業認識尺度」と「文学的文章を読み深めるための観点」のアンケートを使ってみました!

「学習の意欲がどのようにでているのか知りたい」時や、「小説を読み深めるためにはどんなところに重点を置いて読んでいるのか知りたい」時にどうしたらいいのか、探っています。「協同作業認識尺度」も「文学的文章を読み深めるための観点」のアンケートも、更に実践の現場で試みていきたいと思えます。「文学的文章を読み深めるための観点」は改良の余地があるので、改善していきます。